

「本が読めない人の読書会」

開催の呼びかけ

「本から得る知識はとても大切」と、思っているもの

- ・なかなか本を読む時間がない。
- ・そもそも本が読めない。

かく言う私は、後者の方。「毎月通信を書いたり、本も出したりしているのに…」と「本が読めない」という私の言葉を信じてもらえないのだが本当に読めない。我が人生の中で1冊丸々読み切った本があったか否か？

それでも、いろいろ知っているのは知る必要があるからで、知るためにあの手この手を駆使する。その一つに私は、「本を読んだ人から本の内容を聴く」という術で本からの知識を得る。「そんな事が書かれているのかあ〜」と読んだ気になって楽しむ。

そこには当然ながら、読んだ人の視点や考え方や興味関心が介在しているため、正確に本の内容を把握できると思っていない。なので、複数の人から本の内容を聞いてその内容を探る。そもそも私は研究者ではないので正確な本の内容を理解するよりも、読んだ人が得たものも合わせて話を聞き内容を知れば、本の事と本を読んだ人の事との2倍知る機会になってお得だと思っている。

たくさんの人に読んでもらった本をたくさんの人から聞けば、本の内容により近づけるし、語ってくれる人たちの様々な想いとその違いにも触れることができる。

なので、私自身は本が読めないけどより多くの方々には読んで欲しい本がたくさんある。なので、私自身は本を読まないけどより多くの人に本を勧める。

そんな事を長年やってきた私だけど、最近新しく出会う人たちとのやり取りの中、語る言葉が見つからない時がある。「確かその件は〇〇という本に書かれていたけど…」と、思っても読んでいないの相手に伝わる言葉が出てこない。本の内容を知るというよりも、目の前に現れる課題を解決するために、いろんな事をもっと知りたい。もっといろんな人とやり取りできる言葉を得たいと思う。けど、本が読めない。

ならばと、たどり着いた「本が読めない人の読書会」という企画。全くもって他力本願な企画だが、ぜひぜひ多くの人にご参加いただきたい。

当然ながら、参加者全員が読んでいないという状況はまずい。読書会にならない。

なので、「読めない人の…」と言いつつも、ぜひ読まれた方の参加を願っている。

「本を読んだけど、その事を誰かに話したい」「本を読んで自分が描いた感想を聞いて欲しいし、他の人の感想も聞きたい」「本の内容を受け、具体的な現場ではどうなのかを知りたい」等々。読んだ人だけが語り合うのではなく、読んだ人が語りそれを聞いた人も合わせて語り合える場になればと思う。

現在11月10日（日）か17日（日）のいずれかの13時半～17時で準備中

今回取り上げる本は、

『更生支援における「協働モデル」の実現に向けた試論

～再犯防止を止めれば再犯は減る』吉間慎一郎著（LABO, 2017年3,000円＋税）

ちょっとマニアックでお高い本ですが、2018年6月のたこの木通信「ほんの紹介14回目」で、つるたさんが取り上げてくれた本です。

読まれた方・関心のある方で、参加したい方はたこの木までご連絡ください。

10日か17日で参加者の多い方で日程を決めて次号でお伝えします。 岩橋 誠治

追伸

こんな企画を口にした時、「なにそれ！それって読書会と呼べるの？」という人もいる一方で、「おもしろそう」と言ってくれる方もいました。

- ・とりあえず、取り上げたい本を持ち寄ってまずは互いが語り合うところから始めてみては？
- ・「良い支援？」「ズレてる支援！」の読書会がしたい。
- ・興味があるからまずは日程だけ決めて、その後どういう風にするかを集まった人で決めたら？等々

とにもかくにも、話に乗ってくれる方がいらっしゃるといのはとても心強い。

いろんな方々といろんな本でやり取りしたいけど、それだとあまりにも漠然としてしまいなかなか始められない。

そもそも、他者が読んだ本に関心を抱く一方で、自分にとって興味のない本は手に取る事さえしない。

いろいろとご意見を頂く中で、この企画を始めるにあたり、まずは私の関心から始める事が必要と思いました。そして、第1回目として取り上げた本が、今私にとって一番関心を抱いていて読んでみたい本という事です。

とは言え、頂いたご意見ももったもなので、私に取り上げた本に関心のない方もこの企画に関心があればぜひご参加ください。今後の読書会の持ち方や取り上げる本について話ができればと思っています。

「読書会」と称しつつもそうならないかもしれない。もしかしたら思いもよらない展開が始まるかもしれない。

第1回目はちょっと重たい本かもしれませんが、気軽にご参加いただければと思います。